

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭 1F		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自らも個性を受け入れて理解しながら利用者自身の「自分らしさ」「私らしさ」を支援出来る様努めています。また、普段から外出レクやベランダでのお茶会を呼びかけ、日々の生活の中で喜びや気分転換を図って頂けるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0193500139-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成28年3月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室蘭駅から車で5分程の、幹線道路に面した住宅地にある2階建2ユニットのグループホームである。開設後4年であり、新しく清潔である。居間の外や玄関に面した窓が大きく開放的で、キッチンの開口も大きく、周りが見やすくなっている。暖房やエアコン、加湿器、エレベーターがあり、トイレも各ユニット4か所あるなど、設備面が充実している。品の良い絵画や利用者の写真、作品などを飾り、家庭的な雰囲気である。運営推進会議には市や地域包括支援センター、消防署の参加を得ており、行政との関係が緊密である。また、会社全体で社内研修に力を入れ、職員教育を進めている。馴染みの関係の継続の面では、利用者の希望に沿ってスーパーや衣料品店への買い物、社交ダンス教室、カラオケなどへの外出を支援しており、ドライブや受診帰りに利用者の住んでいた付近に行くこともある。重度化に向けた方針については、事業所の対応可能な範囲を説明するとともに、過去に看取りを経験し、外部研修や協力医による講義で看取りについて学んでいる。食事の面では、独自の献立で彩りよく美味しい食事が提供されており、利用者も買い物から調理、後片付けに参加している。利用者同士の会話が多くの、自分らしく穏やかに過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で、家庭的で馴染ある生活が送れるよう、スタッフ全員、日々の業務に取り組んでいます。	3項目からなる事業所独自の理念の中で「地域社会との関係を大切に」という文言があり、地域密着型サービスの理念として確立している。理念を玄関や事務所に掲示し、ミーティング時に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には法人として加入し、町内会総会にも出席しています。毎年、以前入居していた御家族様のご厚意で、クリスマスコンサートを開催しています。	事業所の開設記念行事や夏祭りに地域の方が4～5名参加している。高校生の茶道部や書道の先生、そば打ちのボランティアの方が来訪している。幼稚園児や踊りのボランティアの来訪の話も進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の水族館や博物館に外出し、地域住民と交流し、認知症の啓発を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を開催し、入居者様御家族、民生委員、地域包括、市役所等の関係機関に出席して頂き、意見を取り入れています。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、消防署、利用者家族の参加を得ているが、町内会役員の参加はあまり得られていない。運営報告の他、防災や感染症対策を話し合っている。議事録を全家族に送付している。	町内会役員の方の参加がより得られるよう、継続的な呼びかけを期待したい。また、会議のテーマを計画的に設定することで、より充実した討議の場となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設内で不明な事があれば、各行政機関に、電話や来訪し、指示を仰ぎ解決しています。	運営推進会議に市や消防署職員の参加があり、情報提供を得ている。市役所には書類の提出などで頻りに訪問し、話をしている。年2回の市内のグループホーム連絡会でも市の担当者と情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二か月に一度、虐待防止委員会を開催し、身体拘束等していないか話し合っています。また、必要に応じ随時開催しています。	身体拘束に関わる具体的な禁止行為を記したマニュアルを用意し、身体拘束廃止委員会を定期的に行い、身体拘束に該当する行為がないか話し合っている。玄関は日中施錠せず、利用者の出入りを見守りで確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員が中心となって、日頃からスタッフの言動や介助に問題がないか、検討し合っています		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種、外部研修に参加し、施設内でフィードバックし、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前でも、事前に御家族様とよく面談し、利用料金や医療体制等説明し、同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱、要望書を活用し、御家族様の意見を聞き取れる体制づくりに努めています。	家族は平均して月1回程度来訪している。運営推進会議の案内の際にアンケートを行い意見を収集している。今後は家族の意見を利用者ごとに整理することも検討している。「あさひの家室蘭便り」を毎月作成し、家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議や必要に応じ、個別面談を実施、スタッフの意見等反映していいいます。	毎月の全体会議と随時のユニット毎のカンファレンスなどで活発に意見交換を行っている。年2回、職員の個人面談を行っている。職員は、行事や感染症対策、栄養・物品、環境整備などの委員会に所属し、運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各スタッフの考えや悩み等、必要に応じ面談を実施し、スタッフがやりがいを持って業務に取り組める様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々が、年に1回以上、外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や外部研修に積極的に参加し他施設スタッフとの親交を深める様、努力しています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面談から、御本人様と面接し、困っている事や心身の状態など傾聴し、安心して施設利用出来る関係作りを構築しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の想いや悩んでいる事等、よく傾聴し、サービスに反映出来る様、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や地域包括支援センター等の事業所と連携し、柔軟に対応出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、心身の状態変化はないか、常に観察し、スタッフ同士で意見交換しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、日々の状態変化があれば、直ぐに連絡し、信頼関係が構築できる様、努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様のご協力により、外出や外泊をされたり、親類や知人の面会時は、くつろいで会話できる環境を提供しています。	3~4名の利用者に友人や宗教関係の知人が来訪している。家族と一緒に行きつけの理美容院に通う方もいる。希望に沿ってスーパーや衣料品店への買い物、社交ダンス教室、カラオケなどへの外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格や趣味など個性を。スタッフは把握し、楽しく共同生活が送れるよう、援助しています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退居されたご家族様から、相談等あれば、随時、相談受付を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務の中で、入居者様の性格や行動等常に把握し、入居者様のご意向に合った援助が出来る様、努めています。	8割ほどの利用者は思いや意向を言葉で表現できる。難しい場合も、問いかけの反応などから把握している。一方、利用者の基本情報シートやアセスメントシートなどはあまり整備されていない。	利用者ごとの基本情報シートやアセスメントシートを作成し、定期的に追記や更新を行うことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様、主治医、行政機関等と連絡を取り合い、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌や病院受診記録を活用し、毎日の申し送り、スタッフ全員が周知する様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、ご本人やご家族様、医療従事者の意見を聞き、各入居者様に合ったケアプランを作成しています。	介護計画を6ヵ月毎に見直し作成している。カンファレンスの内容をもとに評価表を作成し、次の計画を作成している。日々の介護記録は、計画目標に対応する番号を記しながら記録を行っている。	計画の見直し期間は6ヵ月でも、モニタリングや評価表の作成は少なくとも3ヵ月で行い、利用者の状況をきめ細かく把握することを期待したい。また、介護計画に家族の署名を受ける際に記入日の記載を受けることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様に変化があった場合は、スタッフや医療従事者等とカンファレンスを開催し、随時ケアプランの変更をしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問看護、医療機関と連携し、入居者様の心身の状態に合わせた体制を整えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源やボランティア、地域包括支援センター等を活用し、入居者様が生きがいをもち生活出来る様、取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、訪問診療等医療機関と連携し、入居者様が適切な医療サービスが受けられる体制を整えています。	約3分の2の利用者は協力医による月2回の往診を受け、他のかかりつけ医への受診も概ね事業所で支援している。受診内容は「医療機関関係報告書」に記載して共有している。	

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、入居者様の心身の状態や変化等あれば、直ぐに報告し、適切な対応が出来る様、努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入退院される時は、口頭や書面で伝達し、医療機関と情報共有出来る様、努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについて、ご家族様には書面にて同意して頂いています。訪問診療と連携し、終末期ケアも実施しています。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意の署名捺印を得ている。医療行為が必要な場合などの看取りは難しい旨を説明し、過去に1名の看取りを経験し、外部研修などで看取りケアについて学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護と勉強会を開催したり、外部研修等に参加し、全スタッフが実践力を習得出来る様、努めています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や消防署と連携し、年2回の避難訓練時、火災や地震災害を想定した訓練を実施しています。	年2回、昼夜および地震を想定した避難訓練を行い、消防や地域住民の協力を得ている。職員の救急救命訓練はまだ一部の受講にとどまっている。災害時に必要な備蓄品の準備を行っている。	全職員が3年に1回程度救急救命訓練が受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。また、地震等火災以外の災害時において、入浴時やトイレ介助時など、場面に応じた対応方法を職員間で確認しておくことを期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフは、日頃から言動や動作に問題はないか、常に意識して業務に取り組んでいます。	居間には、今月の標語「言葉づかい 心のこもった思いやり」が掲示しており、職員は丁寧に利用者に接している。当日に記録する個人ファイルなどは、名前をイニシャルにして個人情報に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様本位で業務に取り組み、入居者の想いを取り組み、安心して自己決定できる支援づくりをしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活リズムを把握し、家庭で生活している様なサービス環境を整えています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来ない入居者様とも、スタッフと一緒に衣類を選択し、季節に沿った着衣援助をしています。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に、食器洗いや調理補助等参加して頂き、入居者様の残存機能維持に努めています。	ユニットごとに別メニューで食事を提供し、献立に季節料理も取り入れている。メニューを選んで貰い、お弁当を注文することもある。利用者は下拵えや野菜を切るなどの調理に参加し、ひな祭りには桜餅づくりを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせて、食事量を調整したり、トロメリンの使用、副食に刻みを入れたり、創意工夫しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを入居者様に合わせて実施、口腔内の清潔を保っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄リズムを、生活日誌等から把握し、快適に生活出来る様、支援しています。	基本的にトイレでの排泄を支援し、夜間も半数の方はトイレに誘導している。3分の1の方は自力で出来ている。耳で排泄を確認して誘導し、必要な部分では中で介助を行い、ドアの外で見守りながら自立面と羞恥心に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の水分量を調節し、排便コントロールが出来ない入居者様には、訪問診療と連携し、薬剤の調整をしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を使用し、三日に一度は入浴する様、心懸けています。入浴が好きでない入居者様には、衣類交換や清拭等実施しています。	毎日、午後の時間帯に週2回以上の入浴を支援し、同性介助の希望も聞いている。入浴を嫌がる方には1番風呂で誘ったり、声かけの工夫で週1回は入っている。入浴剤の種類を変えたり、昔話などをして入浴を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不眠を訴える入居者様には、眠剤を処方したり、暖房や寝具の調整し、良眠できる環境を整えています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や医療機関と連携し、入居者様の病状に合った、服薬支援を行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや体操等以外にも、入居者様個々の趣味を把握し、個別のレク支援を実施しています。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の観光スポットに外出したり、散歩レク等実施し、気分転換出来る様、支援つくりをしています。	暖かい時期には周囲を散歩したり、外気浴を楽しんでいる。個人の買い物や認知症カフェへの参加に同行している。数人ずつ交代で市内の公園や水族館、測量山、海を見てドライブし、年に1回はレストランで外食を楽しんでいる。冬季には通院などで外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要物品等あれば、立替払いとして購入している。外出可能な入居者様とは、一緒に外出して購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話が困難な入居者様には、手紙やFAXを使用し、遠方の家族様、知人と交流を深めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベントや季節ごとに、施設を装飾して、入居者様に季節感を感じて、楽しんで頂けるよう、工夫しています。	広い居間には、食卓テーブルと別にソファが置いてあり、窓から外の様子を眺めてゆったりと過ごせる。回廊型の廊下に沿って居室を配置し、居間から離れた場所にトイレがあるなどプライバシーに配慮した造りになっている。季節の作品や装飾、写真などが飾ってあり、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活をトラブルなく楽しんで生活して頂けるよう、入居者様の性格等配慮して、テーブルの配置等決めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた、愛着ある用品を施設でも使用し、家庭で生活を送っている空間を提供しています。	居室内に使い慣れた洋服や整理タンス、籐椅子、机などの家具類が持ち込まれている。仏壇、化粧台など馴染みの物を配置し、塗り絵の手作りカレンダーや家族の写真を飾り、その人らしい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が快適で安全な生活を送れるよう、居室内の清掃、リビングに障害物を配置しない等、施設内の整備を心がけています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭 2F		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自らも個性を受け入れて理解しながら利用者自身の「自分らしさ」「私らしさ」を支援出来る様努めています。また、普段から外出レクやベランダでのお茶会を呼びかけ、日々の生活の中で喜びや気分転換を図って頂けるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0193500139-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な生活を送れるように支援し、日常生活での生き甲斐や役割を持てる様にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には法人として参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長を通じて、地域住民への認知症の啓発を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催しており、入所者家族、町内会長、民生委員、消防署、地域包括等の関係機関の方に参加して頂き、サービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政担当者が参加して頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月身体拘束廃止委員会を実施して話し合いを行い、拘束しないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心として、日々のケアの中で虐待が行われていないか防止する様に努めています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修に参加して、毎月の会議の時に何を学んできたのか伝え、みんなで理解に努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等で利用料金や医療体制、個人情報取り扱い等説明し、同意を得ています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や要望書、意見箱を活用して、家族様からの意見を聞いて運営に反映させています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議等で職員から意見を聞いて、反映出来る様に努めています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から現場に出てきて、介護方法等を積極的に指導して、職員のスキル向上に努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に1回は各職員が研修に参加して、個々のスキル向上に努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加して交流を深めて、共有の場を作っています。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前から本人や家族と面談し、心身の状態や思い、嗜好等を事前に傾聴してから、受け入れ態勢が確保されている事を説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の願いや、今までの経緯等を傾聴して、どのようなサービスを提供するのかを説明して、より良い関係を気付ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時は関係医療機関等と連携して、柔軟な対応が出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、心身の状態変化は無いかを常に観察して、早めに対応出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして、日々の状態を報告して情報共有に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は落ち着いて話せるような環境を提供している。また家族の協力で外出や外泊なども行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士が穏やかに生活出来る様に、職員が間に入って調整を行っている。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様が数名おられるが、その後も悩み事があれば相談に乗る様にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人に合わせた意向や日々の援助の中で、入居者様本位のサービスを提供できるように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から今までの生活歴を伺う様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録をしっかり残し、生活リズムを報告し情報共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンス等で変化があればその都度会議してケアプランに反映しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様に变化あった時は生活記録に残したり、申し送りでしっかり報告している。必要ならばケアプランを変更している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携して、入居者様の心身の状態に合わせた体制を整えている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して生活出来る様に医療機関や地域包括センター等の地域資源を生かして取り組みをしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や医療機関と連携して、入居者様個人に合わせた医療を提供している。			

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携して、異常が見られた時には直ぐに報告して、適切に対処出来る様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は入居者様の情報を医師に提供しており、情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療と連携し、ホーム内で終末期のケアを出来る様に努めている。また家族様にも同意書を書いてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会を行い、状況に合わせたケアを出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して年2回の避難訓練を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会を中心として、不適切な発言や行為があった場合はその都度注意して改善する様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員や常に入居者様目線で行動して、自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個人に合わせた生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴後の衣類を変える時は、職員と一緒に衣類の選択をしている。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備やテーブル拭き、食器洗い等を職員と入居者様が一緒に行う様になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能低下が見られる入居者様には食事形態を変更して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行い、清潔を保てるように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握して、尿汚れを減らして自尊心を傷つけない様に支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が出辛い入居者様は、訪問看護等に相談して、服薬による排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回は入浴出来る様に努めています。入浴を嫌がれる入居者様には時間を置いて声掛けする等の臨機応変に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠サイクルを把握し、居室内の温度調整等を行い安眠出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬剤の効果等を理解し、服薬時異変がないかを観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に合わせた生活参加を行ったり、カラオケ等嗜好し合わせたレクリエーションを行っています。		

グループホームあさひの家室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日はドライブに出掛けたりして気分転換を図っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭の預かりはしていないが立替購入しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や知人からの電話は取次を行い支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせてホーム内の装飾を変更している。ホールやトイレ、浴室の清掃も毎日しっかりと行っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が仲良く過ごせる様にホール内のテーブル配置を考えて支援しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が昔から使用していた馴染ある物や家族の写真を持ち込んで、馴染のある生活を送れる様に支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒しない様に動線を確保出来る様に配置を考えて支援している。			

目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家室蘭

作成日：平成 28年 4月 1日

市町村受理日：平成 28年 4月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	室蘭市役所より、運営推進会議の出席率が低いと指摘あり。家族様や地域住民に、参加の呼び掛けはしているが、出席率は向上しない。	家族様に運営推進会議の意義を理解して頂き、参加率を向上させ、施設に適切な意見をアドバイスして頂きたい。	今迄は毎週木曜の午後14時より開催していたが、家族様に参加しやすい曜日等をアンケートした。結果、金曜の午前中なら参加し易いと返答あり。日程等変更して参加率を向上させる。また、テーマを決めて、会議を進行し易くする。	1年
2	10	家族様からの要望等は、意見箱やアンケート等にて伺っていたが、記録に残してはならず、施設全体で共有されていない。	入居者様ご家族様の意見を適切に管理し、施設の適切な運営に反映させたい。	入居者ご家族様の意見を時系列に記録するノートを作成、記録に残して、施設全体で共有する。	1年
3	26	ケアプランは半年更新をしていたが、モニタリングを三か月毎に見直しては無く、捺印時に、日付と続柄を記載していなかった。	モニタリングを三か月毎に実施し、ケアプラン捺印時には、日付と続柄を記載して頂き、明確にする。	各フロアの計画作成者が、再度ケアプランの作成を見直して、モニタリングを三か月毎に実施する。ケアプランの用紙も、日付と続柄の欄を作成する。	1年
4	29	地域との交流や、ボランティアの受け入れ体制が整っていない、入居者様の外部との交流が図れていなかった。	年間行事として、ボランティアの受け入れ体制を整えて、入居者様と外部との交流を図る。	社会福祉協議会地域課に登録し、ボランティアを積極的に受け入れ、来訪して頂く。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。